

19. 脂質異常症をほうっておくとどうなるのでしょうか？

脂質異常症があると血管の壁に傷が出来やすくなります。血管の壁の傷口から、コレステロールやトリグリセライドが血管の壁の中にしみ込んでいきます。血管の中でも特に太めの動脈の内側に、コレステロールやさまざまな異物が溜まっていきます。白血球やマクロファージと呼ばれる組織の掃除屋さんも集まってきます。血管の壁は肥厚し、一方では血液が流れている内腔は狭くなってきます。動脈の壁は硬く、もろくなってきます。これが動脈硬化です。血管の傷口には血小板の固まりが出来て、傷口を塞ごうとします。血小板の固まりが血栓となります。血栓が血管壁から剥がれて、血流により運ばれていくと、さらに細い血管を詰まらせてしまうこととなります。血栓症あるいは塞栓症が発病します。

心臓では狭心症や心筋梗塞が発病してきます。脳では脳梗塞、脳出血、脳塞栓などの病気が発病してきます。下肢では、間欠性跛行（かんけつせいはこう）と呼ばれる病気が発病します。この病気になると、歩くと足が痛くなり、少し休むと楽になり、歩きだすとまた痛くなってくるという病気です。

動脈の壁が弱くなってきているので、血圧が高くなると、血管の壁が押し広げられ、動脈瘤が発病することもあります。動脈壁の内側の傷口が広がり、そこから血液が流れ込んで、血管の壁が裂けてくる解離性大動脈瘤という致命的な病気も起ります。

極端な高トリグリセライド血症では、急性膵炎を発病させることがあります。もともと高トリグリセライド血症を持っている人が、忘年会などの宴会で暴飲暴食すると、突然、発病することがあります。激しい腹痛が起ります。これを繰り返していると、膵臓のダメージが広がり、糖尿病が発病してきます。

これらの病気を予防することが大切で、そのために脂質異常症に早く気付いて、治療することが必要です。脂質異常症に動脈硬化症が合併していることが分かれば、脂質異常症の治療とともに、動脈硬化症の治療も合わせて行うこととなります。